

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、施設目標を職員全員で立案し、それに向かって日々取り組んでいる。理念、目標は毎日出勤時各自で確認してから業務に入るようにしています。	法人の理念に基づいた施設独自の目標が掲げられている。年度初めにアンケートを取り全体会議で決め、また、ユニット別目標も立て、出勤時には事務所に掲示してある理念・目標を確認して業務についている。理念は職員に周知・実践されており、家族へは4月の請求書と共に当年度の施設目標を記載したものが送られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で顔を合わせると挨拶を交わし、何かご迷惑をおかけしていないか都度確認している。また施設周辺に散歩に出掛けると、近所の方々から声を掛けて頂き、お花や野菜等頂く事もあります。より良い関係が出来ているので今後も継続していきたいと思えます。	毎年、区長が変わり方針も変わるので区加入はできていないが運営推進会議のメンバーを通して地域への働きかけを行っている。近所の方からは野菜を頂いたり、散歩道や洗濯物干しなどの際に声を掛けていただき話をしている。お年寄りの使わなくなった下着など介護ウエスとして持って来て下さる方もいる。保育園・小学校との交流も行われ、近くの小学校5年生に毎年度認知症サポーター養成講座を行っている。新型コロナ禍ということもありボランティアの来訪も自粛となっているが利用者は再会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献出来るよう行政と協力して町の認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、また、地域の方々がいっしょに相談に来られるような声掛けや体制を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みや普段の様子、現在の状況等報告しながら活発に意見交換を行っている。行政からの新しいサービスの情報や多方面からの意見等聞いたり、それらを参考にしながらサービス向上に活かしている。	3ヶ月に1回開催していたが新型コロナウイルス禍により会議資料がメンバーである家族・区長・民生委員・町健康福祉課・社会福祉協議会・介護相談員・とがわ保育園園長に「ゆかりだより」と共に送られている。頂いた情報や意見は議事録としてまとめ、職員全体会議で報告し業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や介護認定調査等の機会に、職員の方交換を行っている。また、町で行う様々な連絡会等に参加し、市町村、包括、医療機関等の方々との意見交換を行い、協力関係を築いていくようにしている。	町担当者とは連絡を密にとり、町主催の連絡会に参加している。また、ケアマネジャー連絡会、高齢者施設・医療機関等の意見交換会などにも出席し協力関係を築いている。認知症サポーター養成講座の講師をできる職員が3名おり、依頼に応じている。介護認定調査はホームで行われ職員が対応している。月1回介護相談員2名の来訪があり利用者とは話し報告も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設に委員会があり、拘束ゼロを目標に活動している。年2回勉強会を実施し、全職員が身体拘束について勉強し必要性について学んでいる。普段の生活の中で危険性が高い場所のみ施錠はしているが、それ以外はなるべく施錠はしないようにしている。また、身体だけではなく言葉での拘束についても気をつけるよう指導している。	玄関は安全のため施錠されており、窓については夜間施錠している。危険防止のため居室内にセンサーやセンサーマットを使用している方が数名おり家族の了解を得ている。現在、外出傾向の強い方はいない。身体拘束委員会があり年2回施設内研修を行い対応について学んでいる。言葉がけには注意をし、強い口調やなれ合いの言葉にならないよう職員同士注意し合い、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている	虐待については施設内で年2回勉強会を行い、自分は虐待をしていないか振り返りを行う機会としている。日常での職員の対応には他の職員皆で注意を払い、変わった事があればすぐ報告すると共に、どんな虐待も決して起こさないよう日頃から努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成人後見人制度については施設内で勉強会を行い、内容について理解出来るよう努めている。今までに対象の方がいない為、勉強会だけではよく分からない職員もいるようですが、今後対象となる方が現れた時、アドバイスしたり必要に応じ関係機関への橋渡しが出来ようになりたいと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には、入所前に十分な説明を行う中で、不安な点、疑問点などを確認し、その他要望等も伺いながらそれに対し、しっかり説明を行い納得して頂いた上で同意を得ている。また入所後、変更になったり改定された要項などについてもその都度説明をし納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族がいつでも遠慮する事なく話す事の出来る環境を作っている。ご家族には面会時、現在の状態や近況報告などを伝え、意見や要望についてもしっかり耳を傾け対応している。その時の意見等を会議にて全職員に話しその後のサービスの向上に繋げています。	ほぼ三分の二の方が意見や要望を話すことができる。表現できない方にはゆっくりと導きながら、表情の変化を見て汲み取っている。現在新型コロナウイルス禍で、シールドを付け柵越し面会であるが、お便りで体調・普段の様子をお知らせし、電話や来訪時に意見や要望を聞いている。毎月の「ゆかり便り」は全員の写真が掲載されホームの様子がわかると家族から好評である。家族会があり毎年6月と敬老会やクリスマスに合わせ実施され、出された意見等を全体会議で話し合いサービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している全体会議にて、意見交換を行いながら問題点などについて皆で話し合い解決に結びつけている。出来る限り現場の意見を大切にするようにしています。	月1回、全員出席で全体会議が開かれ活発に意見交換がなされている。職員は両ユニットの勤務ができる体制を整えている。目標管理シートにより自己評価を年2回行い、管理者との個人面談の中でも意見や要望を伝えている。職員の意見や要望はいつでもリーダー・管理者に伝えることができ、皆で話し合い解決に結びつけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員の話に耳を傾け、ストレス等なく勤務出来るような環境を整えている。また、それぞれの家庭の事情や身体的な面も考慮しながら勤務の作成を行っている。色々な面を配慮する事で向上心とやりがいを持っていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	強制はしていませんが、その職員には必要であろう研修はこちらから進めたり、もちろん自分で学びたいと言う研修には参加させている。また、出席出来なかった職員にも研修内容を共有していけるように、施設内での勉強会にて学んで来た事を発表している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設との情報交換や問題点の共有を行っており、サービスの質の向上に繋げている。また、行政の開催する会合等でも他の法人施設との交流が取れるのでネットワークを広げ情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面談を行い、ご本人の身体面、生活面、今後の希望や要望などを聴いている。また、ご家族からも情報を頂き、入所後その思いや希望に沿えるようなケアに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設見学をして頂き、その時のご家族の思いや不安、悩み等をしっかり聞いている。また、何時でもご家族の不安や思い等を聞くことが出来る事を伝え、話して頂いた内容を真摯に受け止め信頼関係を築いていくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族それぞれの思いや考えを聞くことで、その時の状況を見極めながら、適切でかつ必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩である方々であるという敬意を常に心に留めながら、同じ目線に立ち、家族のように思い対応をしている。又出来る限り一緒の時間を過ごす事で喜怒哀楽を共に感じながらより良い関係を保てるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃のお身体の状態、生活の様子について毎月のお便りでご家族にお知らせすると共に、来所時には直接お話するようにしている。また、施設の行事にはご家族もお誘いし、ご利用者の方と短時間でも共に過ごす時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊いずれも制限はしていないので、何時どなたが来てもご本人と会う事が出来る。また、どなたでも遠慮なく来て頂いたり、何時でも出掛ける事が出来るような雰囲気であるように気を配っています。	新型コロナウイルス禍、面会はシールドを付け柵ごし面会となつている。面会に際し予約をとり家族に会えるように取り組んでいる。手紙・ハガキの書ける方については家族に送り、返事もあり、電話は事務所でできるので利用者も喜んで。職員と一緒に墓参りに行った方もいるという。理美容は2ヶ月に1回訪問があり、顔馴染みとなった美容師との会話を楽しみにしている。友人や知人にはいつでも来ていただき、また、出掛けられるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用同士の会話やコミュニケーション作りを大切にしている。またそれらが出来る環境作りに努め、決して孤立することなくご利用者同士が助けあったり支えあったり出来るような関係でいられるように努めています		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、今までと変わらぬ生活が維持出来るよう、他施設等について情報提供を行っている。また退所後もご家族の思いや悩みを聞いたり、何時でも相談に乗るなどの支援が出来るようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、ご利用者の言葉に耳を傾け、現在の希望や思いを把握し、その希望が叶う事であれば実施出来るような取り組みを行っている。また本人から訴えが出来ない方に対しては、ご家族に確認しながら本人の立場に立ち皆で検討しています。	三分の二ほどの方が思いや意向を伝えることができるが、遠慮している方が多く、入浴担当の職員が専属で2名おり利用者との信頼関係ができていことから安心して話をされている。「この職員はお風呂の人」と認識しており声かけもスムーズにできているという。利用者についての情報は管理者に伝え、実現できそうなことには、即、取り組んでいる。利用者のつぶやきも含め連絡・申し送りノートがあり出勤時には必ず目を通して職員間で情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、そしてご本人を取り巻いていた様々な方から情報を集める事でその方の生活歴を知り、少しでも今までの生活環境に近い状態で生活出来るようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや過ごし方を把握する事で、それらをチーム全体で共有し、現時点での問題点を話し合い、その方の出来る事、持っている能力を継続しながら生活していけるように努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日常生活を把握し、その方が生活していくうえで課題となる事項をいくつか挙げ、皆で話し合いながらプランを作成している。介護計画は、定期的にあセスメントとモニタリングを繰り返しながら見直しを行っている。また、ご本人の状態が変わった時はその都度見直しを行いプランの変更をしている。	職員は1~2名の利用者を担当している。担当者の意見を聞き毎月の全体会議で話し合い、家族の了解を得てケアプランを作成している。定期的にあセスメント・モニタリングを繰り返し半年に1回見直しを行っている。状況に変化が見られた時には随時見直ししている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者のありのままの様子を介護記録に記載しており、誰もが情報を知り共有出来るようになっている。また、ケアの変更、実践、気づきや工夫を連絡ノートに記入し、職員全体で統一した取り組みを行い都度見直しようにしている。それらの情報等も介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況に合わせ、その時々で臨機応変に対応するようにしている。また、その時のニーズに合わせ、常に柔軟な支援やサービスが提供できるよう努めている。	

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村、地域包括支援センター、民生委員、介護相談員等関係職員の方々とは、運営推進会議やその他の集まり等で情報交換を行い、理解や協力を得ている。また、変化のある楽しい暮らしが出来るようボランティアの方々にも支援を頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人とご家族の希望により決めている。主治医には、症状の変化等あれば情報提供を行い連携を取っている。現在、ご利用者全員が協力医療機関での往診となっている事から、訪問スタッフとは常に連携を取り適切な医療を受けられるようにしています。	利用者全員が協力医を主治医としており月1回の往診を受けている。担当医は3名おりそれぞれ利用者を担当している。訪問看護師の同行もあり、当ホームの看護師との連携がスムーズに行われ医師からも信頼されている。その他の受診については看護師が付き添い、歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での情報や変化、気づき等は常に看護職員に報告・相談しながら適切な対応が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず情報提供書を作成し、看護職員が病院看護師に申し送りをしている。また入院中は、医療機関との連絡を取り合いながら、現状を確認すると共に、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化については定期的にご家族に伝えており、重度化における指針については入所時お話ししているため、ご利用者がその対象となった時には、もう一度しっかり説明を行なった上で、ご本人やご家族の希望に沿えるような形で進めている。またその時は主治医とも連携を図りながら皆で支援していける体制を整えています。	ホーム開設より19件の看取りを経験し、今年度も数名の看取りを行った。入居時に重度化の指針について説明があり、状況に変化が見られた時には協力医から家族に説明をし、看取り介護についての同意を頂き、本人・家族の希望に沿って対応している。慣れ親しんだホームで最期を迎える方が多く、医師からも一番看取りをしているとの言葉を頂いている。職員の経験を踏まえ新しい職員への指導も行われており、管理者が主導し看取り後の振り返りも行っている。主治医との連携を図りながらチームで支援できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルがあるのでそれに基づき訓練等を定期的に行っている。また、救命講習にも定期的に参加したり、施設内での勉強会も定期的に行い、万が一の事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月ミニ防災訓練を実施、6、11月には総合防災訓練を、8月には地震想定訓練を行っている。特に夜間帯は職員が少ない為、地域の方々に協力を得られるように依頼してはいる。災害時は法人、地域の方々、行政等からの協力を得て対応できるようにしている。	月1回職員中心のミニ防災訓練、夜間想定・緊急連絡網訓練・伝言ダイヤル等を行い、6月と11月には総合防災訓練が消防署立会いの下実施されている。8月には法人全体の地震想定訓練が行われ、車椅子の利用者も駐車場まで避難し、また、近隣の方にも参加をいただき、利用者の見守りなどの協力をいただいている。今年度はベランダ・非常口まで誘導している。これからは地域の方に見学や参加を働きかけ協力体制を築いていきたいという。備蓄は米・水等、2週間分の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような状態になったとしても、その方の人格を尊重し、個人のプライバシー確保に努めるよう徹底している。ご利用者の誇りや尊厳を損ねないような対応や言葉掛けは日頃から常に意識して行うよう努めています。	人格を尊重し、具体的には自分がされて嫌なことはやらないという対応に努めている。ため口・命令口調・きつい言い方はせず優しい声がけを心がけ、排泄介助や更衣等、プライバシーの確保をするなど日頃の生活の中で配慮している。名前は基本的に苗字に「さん」付けでお呼びしている。「様」は互いに壁を作ってしまうので使わないことを家族に伝え理解して頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自分で決められるような働きかけをしたり、希望や願いが引き出せるような言葉掛けをしながら対応している。上手く意思表示が出来ない方でも表情など汲み取っていくように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気持ちや想いを一番に考え、一人ひとりが自分のペースで好きなように1日を過ごせるようにしている。計画した行事への参加も決して強制はしていません。参加したい時は参加し、嫌な時はしない。その時の状況を見極め、ご利用者の気持ちを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分でその日に着たい服を選び着て頂ければ良いのですが、上手に選択出来ない方に関しては出来るだけ職員と一緒に決めるなど常に身だしなみには気を配っています。訪問理容で髪をカットして頂いたり、髪の毛を染めたり、希望があれば化粧をしたり、おしゃれも楽しめるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食材を使って食事を作る。食べたい物があればそれを提供出来るようにしています。食事の準備も片付けも強制はせず、行える時に行って頂いています。食事中は音楽を流しながらゆったり会話をしながら食事が出来るようにしています。	介助が必要な方は数名で、他の方は自分で箸・スプーン等で摂取できる。食形態はミキサー食と刻み食で一口大にする方もいる。献立はその日勤務の職員が食材や前回のメニューを見て立てており、ユニットごとに利用者の希望も聞いている。買い物は職員が行い、委託業者の食材も利用し、昼食のみ調理専属の方が1名いる。行事食や誕生日メニューは利用者により好評でありBGMが流れるホールでゆったり会話しながら食事をし、できる方には手伝いをお願いしている。ホームの畑作りにはボランティアの協力があり、収穫は利用者が楽しんでしているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目良く、バランスが良い食事であるように心掛けている。また、一人ひとりの咀嚼、飲み込み状態を考慮し、上手く食べられない方、制限のある方に対しても工夫して食事を作り提供しています。水分摂取にも気を付けながら支援しています。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者全員がその方の能力に応じ、また状態に応じて口腔ケアを行っています。義歯洗浄も定期的に行うようにし、口腔内が常に清潔であるよう努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記載し、一人ひとりの排泄状況をしっかり確認しています。時々失禁してしまっても、尿意のある方トイレにて排泄出来る方に関しては、日中だけでも布シューズを使用し、出来るだけオムツ等にならないような支援を積極的に行っています。	布パンツを使用して自立されている方が数名、あとの方は一部介助・全介助である。排泄表でパターンをつかみ声かけや誘導を行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。失敗を気にする方がおり、職員は「大丈夫・言わずらかったら入れて置いて」と居室にケースを置いている。夜間、ポータブルトイレ使用者が数名いる。トイレはユニット毎に2ヶ所あり、トイレと書かれ男女のマークでわかり易くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、便秘傾向の方に対しては、看護職員の指示のもと排便コントロールを行いながら、出来るだけ定期的に排便が見られるよう対応しています。また、乳製品やゼリー等の提供も積極的に行うようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は出来るだけ入れるようにしていますが、本人の希望やその時の状態、状況に配慮し、入浴して頂いています。また楽しく入浴が出来るように、入浴剤の色や香りを選ぶようにしたり、「夕方入りたい」という希望があれば希望に沿う対応をしています。	自立の方が数名で、他の方は一部介助・全介助で週2回入浴している。入浴専属の職員が2名おり、入浴を拒む方にもスムーズに対応できており、体の変化や傷の発見にも配慮している。浴室には4種類の入浴剤が準備され、色や香りで利用者が自由に選ぶことができ楽しまれている。「夕方に入りたい」「毎日入りたい」という方の希望にも沿えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めていません。なかなか眠れない方に関しては、その原因を皆で考え対応するようにし、出来るだけ薬に頼らず眠れるような対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬をいつ服用しているのか全職員が分かるよう一覧表にしており、薬の副作用や注意すべき点等については看護師から直接伝えたり、定期的に勉強会も行っている。服薬に関しては細心の注意を払い、誤薬や飲み忘れがないよう日頃から十分心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの方が出来るだけ役割を持ち生活出来るようにしています。今まで行っていた事が段々出来なくなったりするので、その時々出来る事を行って頂けるようにし、気分転換が図れるよう支援しています。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でばかりの生活にならないように、季節ごと外出する機会を作っています。また、普段の生活の中で、ご利用者が希望する場所にも出来るだけ出掛けられるようにしたり、買い物と一緒に出掛けたり様々な支援を行っています。	外出する時は自力歩行・歩行器・車椅子の方がそれぞれ数名ずつとなっている。行事外出は年間活動計画に基づき季節を味わえるよう、花見・ぶどう狩り・紅葉ドライブなどに出掛け利用者も楽しんでいる。行った先での写真を後で見るとも楽しみの一つであるという。日常的には職員と一緒にホームの周辺を散歩したり、ペランダでの外気浴で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望しご家族が金額を了解している方は小額のお金を所持しています。ご家族から小口現金をお預かりしているので、生活の中で必要な物の購入や本人が購入したいと言う物に関しては小口現金から出して対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部とのつながりに関しては、ご本人、ご家族の了解の下、ご希望があればいつでも行えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾ったり、季節の物を飾る事で、四季を感じて頂けるように心掛けている。お部屋はもちろんの事、共用の空間もご利用者の方々にとって居心地が良い場所であるように常に配慮しています。	玄関フロアにはお雛様が飾られ季節を感じる事ができた。玄関を挟んで両ユニットが広がり、台所も両ユニットがつながり行き来がし易くなっている。ホールは明るく広々として日当たりが良く、テーブルやソファが使い易く配置され、新聞を読まれたり、職員と話したりと思いいの時間を過ごしている。掃除も行き届き居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方それぞれに自分の居場所があり、日中はその場所でゆったり過ごしながら、時に場所を変え他の方とお話したり、見たいテレビを観たり、趣味を楽しまれたりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室の空間は、ご本人が落ち着く場所であるように、「今暮らしている部屋の物をそのまま持って来て下さい」とご家族にお話しているため、それに近いレイアウトになっていると思われます。また、居室内がいつも清潔であるように、清掃はこまめに行い、クローゼットの中やベットやその周囲も何時でも整理整頓されているように担当者が定期的に確認しています。	居室にはエアコン、クローゼット、壁用フック金具が備え付けられている。持ち込みは自由で家族と相談の上、ベットやタンス、衣装ケースなどが置かれ、家族写真や誕生日カードなども飾られ、整理整頓された居室で心地よい生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全で、かつご利用者それぞれが出来る限り自立した生活が送れるような環境を整えています。		